

2012年1月5日

イビデン株式会社 竹中社長の年頭所感

2012年1月5日午前8時より、各事業場に全役員が出向き、社員を前に竹中社長が年頭の挨拶を行いました。また、テレビ会議システムを利用し、海外拠点(フィリピン、北京、マレーシア、フランス、ハンガリー)との新年互礼会も執り行いました。要旨は以下の通りです。

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は、東日本大震災やタイの大洪水など、想像を絶する大災害に見舞われた一年でした。また、世界経済におきましては、米国経済の回復遅れや欧州の債務問題、日本においては歴史的な円高などにより、景気は低迷しました。

当社の事業環境においても劇的な変化がありました。スマートフォンやタブレット PC 市場が急速に拡大する一方、パソコンの成長は大きく減速しました。その影響から、当社主力の IC パッケージは減産を強いられ、収益力が低下しています。このような情勢の中、各事業本部は構造改革に取り組みましたものの、そのスピードが変化に追いついていなかった反省すべき一年となりました。しかし、着実に成果も出てきています。DPF 事業本部では、技術開発、生産技術本部を巻き込み、ロスゼロ改善を徹底して進め、再び収益力を高める形が整ってきています。

本年の11月に当社は創業100周年を迎えます。これまで当社は、中期経営計画、Global IBI-TECHNO 100 Plan に沿って、次の新たな100年に向かうための基盤づくりを行ってきました。その仕上げの一年として、次の3点を100周年事業の基本においていきます。①水力発電所の改修工事の完了（東横山、川上を済ませ、広瀬発電所を今春完了予定）、②イビデンの森の整備（地域の皆さんとともに憩いの森づくり）、③IPM 活動（イビデン独自の改善活動）のグループ内への定着です。

2012年の世界経済は大変厳しい状況が予測されますが、100年前の当社創業時の状況は、今よりもさらに厳しいものでした。DPF 事業のロスゼロ改善をモデルに、国内だけでなく海外の各生産拠点にも改善の手法をしっかりと定着させていきます。そして、為替変動に強く、日本の生産技術力をもった世界最強の工場に仕上げていく考えです。日本生まれのグローバル企業としての良きアイデンティティーを持って、新たな100年に向けて船出したいと思えます。

以上

